

2024 年 6 月 14 日

報道関係者 各位

学校法人立命館
一般財団法人戦没画学生慰霊美術館無言館
有限会社 希林館
＜配信枚数2枚＞

**【無言館】窪島誠一郎氏に加え、共同館主に文筆家・内田也哉子氏が就任
“戦没画学生の思い繋ぐ” 立命館が無言館の運営をサポート**

立命館大学などを運営する学校法人立命館(京都市中京区、理事長:森島 朋三、以下立命館)と一般財団法人戦没画学生慰霊美術館無言館(長野県上田市、共同館主:窪島誠一郎氏、以下無言館)は、無言館の更なる発展に向けて連携強化を進めることとなりました。このたび、文筆家の内田也哉子氏を無言館の共同館主に迎え、世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献していきます。



記者発表会の様子(2024 年 6 月 14 日)

無言館は、1997 年に窪島誠一郎氏個人で創設し、第二次世界大戦で没した画学生の遺作を展示する美術館です。戦争で亡くなった画家たちの作品を通じて、彼らの記憶と戦時下という不条理な時代をどのように過ごしたのかを後世に伝えています。

四半世紀を迎えた無言館。今回、無言館設立の思いを次世代に向けて継承し、新たな展開を行うため、2019 年より無言館への取材や窪島誠一郎氏との対話などを経て、その存在の尊さを執筆やメディア出演を通し、広い世代にわたり周知してきた内田也哉子氏が無言館・共同館主に就任します。

また、1997 年の無言館開設当初より連携を行ってきた立命館が、理事・評議員の派遣を含む無言館の運営サポートをはじめ、教育研究連携・人的交流などを進める予定です。

◆内田也哉子 無言館共同館主/文筆家のコメント

無言館館主で、作家の窪島誠一郎さんとは『BLANK PAGE 空っぽを満たす旅』の対話を通して、芸術と共に生きるということ、そして、個人と社会にとっての真の平和について語らう貴重な機会を頂きました。やがて窪島さんと交流を深める中で、無言館のバトンを共に未来へ繋ぐ走者の役割を拝命いたしました。微力ながら精一杯、無言館という稀有な美術館の存在を多くの方々へ伝えていけるよう努めたいと思います。戦争を知らない者として、この出会いから多くのことを学び、戦没画学生が遺してくれた素晴らしいアートを通し、それらを愛でることができる平和の今を皆さまとシェアできることを切に願っております。

◆窪島誠一郎 無言館共同館主のコメント

内田也哉子さんの共同館主就任を心から歓迎します。「無言館」27 年の孤独な道に、大輪の花が舞い降りたようです。私より三回りも若い也哉子さんの新しい力、瑞々しい感性を得て、天上の戦没画学生たちもさぞ喜んでいることでしょう。またそうした土壌をつくってくださった立命館の森島理事長をはじめ関係者各位に深く感謝申し上げます。

◆森島朋三 学校法人立命館理事長のコメント

立命館は、第二次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて教学理念を「平和と民主主義」とし、1992 年に世界で初めて大学が運営する平和博物館「立命館大学国際平和ミュージアム」を設立しました。内田様の共同館主就任は、無言館の取り組みを次世代へと継承するための重要な節目となります。立命館は全面的にサポートさせていただく中で、無言館とともに、「平和」について「問いかけ」「考える」機会を創出してまいります。

【内田也哉子氏 プロフィール】

1976 年東京生まれ。エッセイ執筆を中心に、翻訳、作詞、音楽ユニット sighboat、ナレーションなど、言葉と音の世界に携わる。樹木希林と内田裕也の一人娘として生まれ、幼少のころより日本、米国、スイス、フランスで学ぶ。夫に俳優の本木雅弘を持つ。三児の母。著書に『新装版 ペーパームービー』（朝日出版社）、『会見記』『BROOCH』（ともにリトルモア）、樹木希林との共著に『9 月 1 日 母からのバトン』（ポプラ社）、脳科学者・中野信子との共著に『なんで家族を続けるの？』（文春新書）など。絵本の翻訳作品に『たいせつなこと』（フレーベル館）、『岸辺のふたり』（くもん出版）これが絶版なので、「うみ」にします。などがある。E テレ「no art, no life」（毎日曜 08:55〜）では語りを担当。NHK 総合「オチビサン」主題歌『ロマンティック』へ作詞で参加。出演映画『わたくしどもは。』が 2024 年公開予定。ナレーションを務めた映画『Pale Blue Dot 君が微笑めば、』が全国にて順次公開。季刊誌「週刊文春 WOMAN」での連載エッセイをまとめた『BLANK PAGE 空っぽを満たす旅』（文藝春秋社）が発売中。

【無言館と立命館の連携について】

●理事、評議員の派遣とそれを通じた業務運営のサポート

学校法人立命館より、無言館の業務運営サポートとして理事（2 名）、評議員（1 名）を派遣

●内田也哉子氏による学生向け講演会の実施

無言館のアートの魅力を通し、学生や会参加者と共に平和なくしては叶わない作品の創作や観ることの豊さを共有し、戦争を知らない世代として平和をどのように受け止めるのか、また現在進行中の平和の危機を踏まえ、今を生きる私たちが、主体的に平和創造を考えるきっかけとして、内田也哉子氏と学生らを中心に対話や交流を深める。

●学術・研究連携

画学生の絵の研究を進め、当時の若者たちがどのような思いでいたのか、どのような時代背景だったのか、両者で連携して研究を実施

●学芸員の交流

両施設に所属する学芸員の交流

※現時点では予定であり、今後変更になる可能性もございます。

【無言館について】

1997 年長野県上田市に館主・窪島誠一郎による私設美術館として開館。日中戦争および太平洋戦争で戦死した美術学校の学生や卒業生の作品・遺品などの資料を収蔵・展示。2008 年、隣接地に第二展示館「傷ついた画布のドーム」を開設。同年、一般財団法人化。現在は戦没画学生約 130 人による 150 点（天井画を除く）の作品を展示。収蔵点数は約 700 点。

HP <https://mugonkan.jp/>

【無言館と立命館のこれまでのつながり】

無言館の館主・窪島誠一郎氏と安斎育郎氏（国際平和ミュージアム名誉館長）とのつながりから、2005 年に「無言館京都館 いのちの画室（アトリエ）」を立命館大学国際平和ミュージアム内に開設しました。無言館京都館では、関西地域に関連する戦没画学生の作品を中心に、遺作、遺品など 34 点が展示されています。

無言館京都館 いのちの画室（アトリエ）→



【立命館大学国際平和ミュージアムについて】

1992 年開館。立命館大学の「平和と民主主義」の教学理念を具体化する教育・研究機関として、また社会に開かれ、発信する社会開放施設として開設しました。2005 年に第 1 期展示リニューアルを行い、国際平和メディア資料室を新設。2023 年に第 2 期展示リニューアルを行い、地階と 2 階に分かれていた常設展示を地階に統合。施設設備についてもユニバーサルデザインに配慮したものに改装し、2 階に主体的な学習や資料の閲覧が可能なピースコモンズを設置しています。

HP <https://rwp-museum.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

■学校法人立命館 広報課：立岩・勝屋・名和

（TEL:075-813-8300/E-mail:r-koho@st.ritsumei.ac.jp）

■一般財団法人戦没画学生慰霊美術館無言館

（TEL:0268-39-7007）